

通し番号	レベル	広尾学園国語科・推薦図書100冊		e-library 所蔵	空文庫	
1	★	【書名】 【著者】 【出版社】	読書力 斎藤孝 岩波新書	なぜ読書をするべきなのか？読書をするどのような力が身につくのか？具体的な目標を提示してくれる好書。これから本を読もうという人に読んでもらいたい一冊。		
2	★	【書名】 【著者】 【出版社】	中学生からの大学講義 色々 ちくまプリマー新書	様々な評論家が自身の専門テーマについてわかりやすく説明してくれている本。講演がもとになっているので読みやすく、読書が苦手な人にも理解しやすいはず。整理している著者はいずれも評論文壇の人たちなので、読めば読むほど現代文が得意になる！		
3	★	【書名】 【著者】 【出版社】	宝島 スティーヴンソン 光文社古典新訳文庫／岩波文庫／新潮文庫	港の宿屋「ペンボウ提督亭」を手助けしていたジム少年は、泊り客の老水夫から宝の地図を手に入れる。宝の眠る島への航海へ出発するジム。だが、船の船長として乗り込んだジョン・シルヴァーは、悪名高き海賊だった。	○	○
4	★	【書名】 【著者】 【出版社】	仔鹿物語（上・下） ローリングズ 光文社古典新訳文庫	傑作林（クラフ）が広がる土地で厳しい閉居生活を送るバクスター一家。ある日、父ベニーがとっさに撃ち殺した雌シカの傍らに、母を失った仔シカが立ち尽くしていた。息子ジョディは仔シカに魅了され育てたいと両親に懇願する。		
5	★	【書名】 【著者】 【出版社】	十角館の殺人 綾辻行人 講談社	アガサクリスティの有名ミステリー「そしてだれもいなくなった」のオマージュによって成り立つこの作品は、読んだら必ず騙される巧妙なトリックが仕掛けられている。映画や漫画、様々なメディアが溢れる現代で、叙述トリックの面白さは、書籍でしか味わえない。本作品を読んで、読書の楽しさを知ってもらいたい。		
6	★	【書名】 【著者】 【出版社】	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー ブレイドみかこ 新潮社	筆者の息子が通ったのは、英国の「元・底辺中学校」。彼と周りの友達の日日を母親の視点から描いているノンフィクションです。いま書店で山積みされています。題名の意味する内容をぜひ読んでください。		
7	★	【書名】 【著者】 【出版社】	数の悪魔 ハンス・マグヌス エンツェンスベルガー 晶文社	対象年齢は小学生くらいなのでとても読みやすい。国語嫌いなにも数学嫌いなにも入りやすい内容になっている。		
8	★	【書名】 【著者】 【出版社】	クリスマス・キャロル チャールズ・ディケンズ 新潮文庫／岩波少年文庫／集英社文庫／光文社古典新訳文庫	ケチで冷酷で人間嫌いのがりがり死者スクルージ老人に訪れた、クリスマス・イブの夜の奇跡。文豪が贈る愛と感動のクリスマス・プレゼント。		○
9	★	【書名】 【著者】 【出版社】	タイムマシン ウェルズ 光文社古典新訳文庫／角川文庫／岩波少年文庫	時空を超えるタイムマシンを発明したタイム・トラヴェラーは、80万年後の世界へ飛ぶ。そこは、地上に住む著者で種やかなイロイロ人と、地底をめぐらする野蛮なモロック人という2種族による原始的な階級社会だった。SFの不朽の名作。		
10	★	【書名】 【著者】 【出版社】	ロビンソン・クルーソー デフォー 光文社古典新訳文庫／集英社文庫／岩波文庫／中公文庫／新潮文庫	船に乗るたびに災難に見舞われるロビンソン。無人島漂着でさすがに悪運尽きたかと思えたが、住居建設、家畜の飼育、麦の栽培、パン焼きなど、試行錯誤しながらも限られた資源を活用して28年を暮らすことになった男の波瀾の人生を描いた傑作。	○	
11	★	【書名】 【著者】 【出版社】	白い牙 ロンドン 新潮文庫／光文社古典新訳文庫	犬の血を4分の1引いて、北米の原野に生まれた狼「ホワイト・ファンク（白い牙）」。あるとき人間に飼われることになり、人間の残酷さや愛情に触れることで、心のなかにさまざまな葛藤が生まれるのだった。		
12	★	【書名】 【著者】 【出版社】	チルドレン 伊坂幸太郎 講談社文庫	短編のため、気軽に自分のペースで読むことができる。あまり身近とは言えない話題にもかかわらず、とても身近に感じられる作品。		
13	★	【書名】 【著者】 【出版社】	地底旅行 ジュール・ヴェルヌ 光文社古典新訳文庫／岩波文庫／創元SF文庫／偕成社文庫	謎の暗号を苦心のすえ解読したリーデンブロック教授と甥の助手アクセル。二人は寡黙なガイド、ハンスとともに地球の中心へと旅に出た。前人未到の地底世界を驚異的な想像力で自在に活写したヴェルヌの最高傑作。		
14	★	【書名】 【著者】 【出版社】	ハックルベリー・フィンの冒険（上・下） マーク・トウェイン 光文社古典新訳文庫／新潮文庫／岩波文庫／岩波少年文庫	ジムの後の旅には危険が一杯。さらに途中で道連れとなった詐欺師どもは厄介事ばかり引き起こす。ときに手に汗握る、ときに抱腹絶倒の冒険譚。		
15	★	【書名】 【著者】 【出版社】	野性の呼び声 ロンドン 新潮文庫／光文社古典新訳文庫	ゴールドラッシュに沸くカナダ・アラスカ国境地帯。ここでは犬狼が開拓者の唯一の通信手段だった。大型犬パックは、数百年運命のもと、この地で雄犬となる感傷を排しドライな筆致で描かれた、犬と男たちの荒々しいドラマ。		
16	★	【書名】 【著者】 【出版社】	銀二貫 高田郁 幻冬舎文庫	この小説は「銀二貫」すなわちお金を取り巻く江戸時代の人々を描く時代小説である。必死で貯めた銀二貫を困っている人のために使ってしまう和助、彼に助けられた鶴之輔が周りの人に支えられながら商人として成長していき、最後は「銀二貫」という貨幣価値以上の幸せを人々にもたらしていく。人と人が助け合い、支え合うことの大切さを教えてくれる、心温まる人情劇となっている。		
17	★	【書名】 【著者】 【出版社】	彼方のゴールド 大崎梢 文藝春秋	千石社という出版社で働く若者シリーズの最新刊。スポーツ雑誌に配属された編集者が主人公です。読後感が爽やかなのは、この作者の作品全てに共通しています。		
18	★	【書名】 【著者】 【出版社】	サブマリン 伊坂幸太郎 講談社文庫	『チルドレン』の続編。前作を読んでなくても楽しめるが、ぜひ前作を読んだうえで手に取ってほしい。偶然の積み重ねによる物語の重厚さを感じてほしい作品。		
19	★	【書名】 【著者】 【出版社】	八十日間世界一周（上・下） ジュール・ヴェルヌ 光文社古典新訳文庫／角川文庫／岩波文庫	汽船、汽車、象と、あらゆる乗り物を駆使して次々巻き起こる障害を乗り越えていくフォッグ氏一行。旅先で次々に起こる波瀾万々の物語。		
20	★	【書名】 【著者】 【出版社】	トム・ソーヤーの冒険 マーク・トウェイン 光文社古典新訳文庫／新潮文庫／岩波少年文庫等	トム・ソーヤーは悪さと遊びの天才。退屈な教会の説教をクワガタ一匹で忍び笑いの場に変えたり、家出して親友のハックたちと海賊になつたり。ある時、偶然に殺人現場を目撃してしまう。小さな英雄たちの冒険を随々しく描いたアメリカ文学の金字塔。	△ 世界名作劇場版	
21	★	【書名】 【著者】 【出版社】	戦場の秘密図書館 マイク・トムソン 文溪堂	シリア内戦下の町ダラヤ。政府軍により封鎖され、日常的に空爆される中、如何に人々が瓦礫の中から本を救出し、地下に図書館を作り、本を読むことによって救われ、絶望的な状況を生き抜いたかを描いた感動のノンフィクション。		
22	★	【書名】 【著者】 【出版社】	そばかすの少年 ポーター 光文社古典新訳文庫／角川文庫	片手を失い、自分の本名すら知らない孤児の少年「そばかす」は、「リンバロストの森」で木材泥棒から森を守る番人として働くことになる。孤独と恐怖、厳しい自然と闘いながら、人の愛情に包まれて「そばかす」は逞しく成長していく。		
23	★	【書名】 【著者】 【出版社】	恩讐の彼方に 菊池寛 新潮文庫	中学入学後、個人的に最初に読んだ本となります。中1ながらも様々な観点に立ち読み進めることができた小説になりますので、是非とも中学生になった早い段階で読んでみてください。		○
24	★	【書名】 【著者】 【出版社】	十二国記シリーズ 小野不由美 新潮社	いわゆる「異世界ファンタジー」なのですが、ビジネス書籍や自己啓発本の類に勝るとも劣らない溢れ出てびっぴりします。ゲームや漫画は好きだけど「マジメ」な「ムズカシイ」話は苦手、という人にもいいかも。		
25	★	【書名】 【著者】 【出版社】	新解さんの読み方 夏石鈴子 角川文庫	「読書を読むのは楽しい」と伝えてくれる本。「新明解国語辞典」の語釈にツッコミを入れ、用例に笑う。著者の短い感想も楽しい。「勉強」「そうする事に抵抗を感じながらも、当面の学業や仕事などに身を入れる意」そう、「抵抗を感じる」けれど、「身を入れる」ものなんです、勉強って。		

26	★	【書名】 【著者】 【出版社】	12歳からの現代思想 岡本裕一朗 ちくま新書	12歳からと書いてありますが、中身はしっかりと考えさせるものです。身近な疑問から発展させていく哲学の面白さを味わえる1冊。12歳をこくに過ぎた人も是非読んでみてください。		
27	★	【書名】 【著者】 【出版社】	先生はえらい 内田樹 ちくまプリマー新書	挑発的なタイトルですが、「学ぶ」とはどういうことなのかに気づかせてくれる1冊。読み進めていく内に不思議と筆者の論理に引き込まれていくはず。		
28	★	【書名】 【著者】 【出版社】	世界地図の下書き 朝井リョウ 集英社文庫	自分の人生をどうやって肯定するか、大切なことは何か、年齢も境もバラバラな子どもたちが毎日を一生懸命に生きて考えていきます。最後は温かい気持ちでいっぱいになるそんな一冊です。		
29	★	【書名】 【著者】 【出版社】	海の底 有川浩(有川ひろ) 角川文庫	突然変異で巨大化したザリガニレガリス。たまたま海上自衛隊の潜水艦に避難した少女と普段は問題児扱いされている自衛官の二人。究極の閉鎖空間の中で、それぞれの事情を持った彼らとどのように歩み寄り協力していくのか。少女少女たちが成長していく姿が美しい。人気作家・有川ひろの自衛隊シリーズの中で一番好きです。続編がおさまられた短編集「ワジの彼」もぜひ。		
30	★	【書名】 【著者】 【出版社】	お江戸でござる 杉浦日向子(監修) 新潮文庫	江戸時代は遠くない。江戸の庶民や生活を知ると「日本人って変わらないなあ」と実感できます。古典の授業でも「奥の細道」以外は、江戸時代の作品をあまり読まないのが、私たちと関係ない人たちだと思っているかもしれないが、イベント(祭り)にうきまき出たり、グルメ(屋台)を楽しんだりする姿を知ると、とっても身近に感じます。私がタイムスリップするならば、江戸時代がいいなと思っています。		
31	★	【書名】 【著者】 【出版社】	イギリスはおいしい 林望 文春文庫	「イギリスは料理が今一つ」と言われていますが、本当？うん、確かにあんまりおいしくない(実体験)でも、イギリスだっておいしいものはある。友人とともにピクニックで食べる手作りサンドイッチ、ケンブリッジ大学で食べる格式ばったハイテーブル・ディナー、私もその状況で食べてみたい。そして、私はこの本で、フライドポテトにお酢をかけるおいしいことを知り、巻末のレシピでスコッチを作っています。		
32	★	【書名】 【著者】 【出版社】	猫とみれんと 寒川猫持 文春文庫PLUS	気軽に読める歌集。短歌集を読んだことがない人におすすめ。猫好きで、妻に連れられたらたのバツイチ中年男のトホホな毎日を短歌にしています。「戻れた舌でわが口語る猫 好意謝するにあまりあれども」「にゃん言よ今日も電話は鳴らんニヤー 不実な婆っけりだニヤー」読んでふふふと笑って、ちょっとしんみりします。		
33	★	【書名】 【著者】 【出版社】	俳句の図書室 堀本裕樹 角川文庫	俳句に興味がない人でも、「へえ、そうなんだ」と分かるように、俳句の背景や魅力を解説している本。教科書で見たことがある有名な俳句から、現代俳人の句まで豊富なポイントを教えてくれます。巻末にある又吉直樹さんとの対談を読むと、「自分でも作ってみようかな」と気軽に思えるのではないのでしょうか。この二人の対談と実践「友人と俳句」もおすすめです。		
34	★	【書名】 【著者】 【出版社】	不実な美女か貞淑な醜女(ブス)か 米原万里 新潮文庫	ロシア語同時通訳者だった著者が「同時通訳」の現場を生きて描くエッセイ集。同時通訳に興味がある人は必読。言葉や文化に興味がある人もぜひ読んでみてください。この本では、著者のユーモアが抑え気味ですが、「美女の1ダース 正義と常識に冷や水を浴びせる13章」は、電車の中で読むのは危険。どちらも笑って、しかも、「へえ」と思うことが盛りだくさんの、言葉と文化に関わるエッセイです。		
35	★	【書名】 【著者】 【出版社】	江戸川乱歩短編集 江戸川乱歩 岩波書店等	探偵小説から不気味な世界観まで、様々な短編を書いた江戸川乱歩の作品集。探偵小説系を読みたい人は「二銭銅貨」「屋根裏の散歩者」あたりから、不気味な世界観を覗いてみたい人は「人間椅子」「鏡地獄」あたりから読むのをオススメします。	○	○
36	★	【書名】 【著者】 【出版社】	宮本武蔵(一)~(八) 吉川英治 講談社	剣豪宮本武蔵の生涯を描いた歴史小説。強さを求めて様々な決闘を繰り返す中で自分自身を本当の強さを見つめていく成長が面白い。井上雄彦の漫画「バガボンド」の原作にあたる。漫画と原作を読み比べていくのも楽しい。	○	○
37	★	【書名】 【著者】 【出版社】	蹴りたい背中 綿矢りさ 河出文庫	17才でデビューした著者による、不器用で屈折した青春を描いた短編小説。思春期特有の人間関係を描いており、共感できる人も多しはず。	○	
38	★	【書名】 【著者】 【出版社】	地獄変 芥川龍之介 集英社等	残酷さの中に人間存在の本質を描く短編の名手である芥川龍之介の短編集。「地獄変」のほか、「蜘蛛の糸」「羅生門」「藁の舟」「蟹神」「トロロ」など、各作面白い。どれも読んでみてもその作品世界は深く印象に残るはず。	○	○
39	★	【書名】 【著者】 【出版社】	汚れつちまつた悲しみに 中原中也 集英社等	最近の天才詩人・中原中也の代表詩集が収められた1冊。「汚れつちまつた悲しみに」の後に続く言葉を知っていますか？知らなかったら読みましょう。その他有名な「サーカス」なども収められている。個人的には「骨」がオススメです。	○	○
40	★	【書名】 【著者】 【出版社】	砂糖の世界史 川北稔 岩波ジュニア新書	身近な砂糖の歴史に注目することで、世界が見えてくる!「グローバルイノベーション」や「コロニアリズム」など、評論文で頻出の概念についてもわかりやすく説明してくれています。	○	
41	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	未来形の読書術 石原千秋 ちくまプリマー新書	読書をしている時に私たちにどのような意識が働いているのか?評論の読み方や小説の読み方についても説明してくれる、現代文を理解したい人にオススメの1冊。		
42	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	寝ながら学べる構造主義 内田樹 文春新書	評論文におけるテーマ知識として、構造主義に関する文章は頻出。この本は構造主義の中心となった思想について、わかりやすく身近な例を用いて説明してくれる。大学受験対策にも効果的な1冊。		
43	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	和歌とは何か 渡部泰明 岩波新書	古文を勉強していて和歌がどうもしっくりこないと感じた人はいませんか?そんなあなたにこの1冊をおすすめします。和歌の技法について様々な例を用いてわかりやすく説明してくれ、古文の世界における和歌をめぐる文化について理解できるはず!		
44	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	はじめて学ぶ生命倫理 小林亜津子 ちくまプリマー新書	生命倫理とは何をめぐる倫理的判断のこと。様々な医療現場において、どのような判断のもと医療行為が為されているか、その問題を考えることで私たちの命の重さが浮かび上がってきます。将来医師になりたいと思っている人は是非読んでみてください。		
45	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	苦海浄土 石牟礼道子 集英社文庫	工場排水の水銀が引き起こした文明の病・水俣病を、我々は社会の教科書でしか知らない。この作品は、平凡な主婦であった著者が、患者と出合い、その家族の苦しみを自らのものとして、杜絶かつ清冽な記録を綴った「いのちの文学」である。		
46	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	人間の大地(土地) サン=テグジュペリ 光文社古典新訳文庫/新潮文庫	郵便機のパイロットとして長いキャリアを持つ著者が、黎明期のパイロットの生き様を時に臨場感豊かに、時に哲学的に語る。人間にとって大切なものは何かを鋭く問うたサン=テグジュペリ文学の大傑作。		
47	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	原爆供養塔一忘れられた遺骨の70年 堀川恵子 文春文庫	広島平和記念公園の一角に、被爆者の遺骨を納めた「原爆供養塔」がある。原爆が投下されたあの日、広島で何が起きたか。そして人々は、その後の時をどう過ごしたか。優れたノンフィクション作家による、知られざるヒロシマの物語。		
48	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	項羽と劉邦 司馬遼太郎 新潮文庫(上・中・下)	あなたは項羽派? 劉邦派? 將軍の家系出身の項羽と、農民出身の劉邦が覇権を争う、中国の歴史書『史記』(司馬遼)をもとにした、作者の独自の視点から描いていく。いまだに日本人にファンが多い歴史ドラマ。		
49	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	言語小説集 井上ひさし 新潮文庫	【更新一を読み終えた君に】 言葉の達人による、言葉がテーマにした小説集。テーマが言葉かとは侮るなかれ、奇想天外な内容に驚かず。解説は簡明瞭。これが面白ければ簡明瞭もどうぞ。		
50	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	野火 大岡昇平 新潮文庫	絶対的な孤獨、発作的な殺人、人肉食への欲望、そして同胞を持つ生き延びようとする戦友たちという現実。戦争を知らない我々が抱く、絶望に陥れるイメージとは大きく異なる戦争のリアルがここにある。		
51	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	陰翳礼讃 谷崎潤一郎 角川文庫	作者谷崎潤一郎は『源氏物語』の現代語訳を発端に、日本古典に取材した小説を数多く発表し、日本的な美意識の深淵を探求した作家である。西洋が「光」に重きを置くとすれば、日本はその「光」によってできた暗くほんやりとした「闇」に美を見出す。グローバル化の進む現代において、改めて日本の美の本質とは何かを考えるきっかけになる随筆といえる。		○

52	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	東大教授が考えるあたらしい教養 藤垣裕子・柳川範之 幻冬舎新書	ネットでボチボチとあらゆる情報が得られる現代、本物の教養を身に付けるとはどういうことか？ どうすればよいのか？ 考えさせられます。		
53	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	こんな夜更けにバナナかよ 渡辺一史 文春文庫	一人では生きることのできない筋ジストロフィー患者である鹿野晴明という青年と、彼をボランティアで支える学生や主婦との日常の記録。だが、ここにあるのはありがちな感動物語ではない。ボランティアや介護・福祉の問題を考えるための好著。＊別に原案:渡辺一史、脚本:橋本裕志による小説版「こんな夜更けにバナナかよ」がある。		
54	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	霞町物語 浅田次郎 講談社文庫	「霞町」ってどこかわかりますか？ 広島学園を出て外務省通りを広島駅と逆方面に行くところ(現・西麻布)の交差点があります。大学受験を控えた高校生が、恋に迷い、この町で輝かしい人生を輝かせた。		
55	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	完本 短編集モザイク 三浦哲郎 新潮社	【小説ならではの心情表現を味わいたい君に】 「笹舟日記」も良いですが、入手しやすいこちらを。文庫版もあります。短編の名手でもあった筆者による珠玉の作品集。人情の機微の分かる大人になりたいあなたに。		
56	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	沈黙 遠藤周作 新潮文庫	キリシタン禁制の厳しい日本に潜入したポルトガル人司祭ロドリゴは、日本人信徒たちに加えられる残忍な拷問と悲惨な殉教のうめき声に接して苦悩し、ついに殉教の道に立たされる。〈神の沈黙〉という永遠の主題に切実な問いを投げかける作品。		
57	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	人間失格 太宰治 新潮文庫／文春文庫／角川文庫／岩波文庫／ちくま文庫	「恥の多い生涯を送って来ました」3枚の奇怪な写真と共に渡された睡眠薬中毒者の手記には、その陰鬱な半生が克明に描かれていた。人間が本来持つ弱さを描きあげた「人間失格」はまさに太宰治の自伝であり遺書である。	○	○
58	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	ねじまき鳥クロニクル 村上春樹 新潮文庫	不思議な登場人物たちによって起こされる様々な奇妙な出来事を通して、人間の持つ普遍的な悪と暴力が描かれた傑作長編。		
59	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	月光の夏 毛利恒之 講談社文庫	「月光」とは、ベートーヴェンのピアノソナタ第14番、あの「月光」。太平洋戦争末期、特攻基地に向かう特攻隊員が、出発前にランドピアノを弾くために、国民学校を訪れる…。実話などをもとに創作された作品。		
60	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	水点 (上・下) 三浦綾子 角川文庫	美・夏枝が油断している間に3歳の娘を殺害された辻口は、夏枝への復讐のために、密かに当の殺人犯の娘・陽子を養女にする。人間の愛と教しをテーマにして大ベストセラーとなった作品。		
61	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	アルジャーノンに花束を ダニエル・キース ダニエル・キース文庫 (早川書房)	32歳になっても幼児の知能しかないハン屋の店員チャーリー・ゴードン。やがて手術により、チャーリーは天才に突如したが…優秀な頭脳を手に入れた青年の愛と憎しみ、喜びと孤独を通して人間の心の真実に迫る現代のバイブル。		
62	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	箱船の航海日誌 ウォーカー 光文社古典新訳文庫	ノアは神に命じられた通り、洪水に備えて箱船を造り、動物たちとともに漂流する。しかし舟のなかに禁断の肉食を知る動物・スカブが紛れ込んだことから、無垢で平和だった動物の世界は、確実に変化していくのだった。		
63	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	論文捏造 村松孝 中公新書ラクレ	科学の殿堂・ベル研究所の、若きカリスマ、ヘンドリック・シェーン。彼は超電導の分野でノーベル賞に最も近いといわれた。しかし2002年、論文捏造が発覚。周囲はなぜ彼の不正に気がつかなかったのか？ 現代の科学界の構造に迫るノンフィクション。		
64	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	ヴィヨンの妻 太宰治 新潮文庫	高校に入ってすぐの頃、友人が無理やり連れていかれた読書会。その対象作品がこの小説でした。当時、私は太宰が好きではなかったので、太宰ファンと激論をたかかわることになってしまった思い出の一冊です。		○
65	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	マイナス・ゼロ 広瀬正 集英社文庫	大学生にしてSF小説にはまっていた頃、友人が勧めてきた本の中で、唯一、一気に読み進めてしまった長編小説です。そのため、しばらくの間「広瀬ワールド」にはまってしまったのもいい思い出です。	○	
66	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	塩狩峠 三浦綾子 新潮社	実際の鉄道事故を元にしたこの小説の、多数の乗客の命を救うための犠牲にされた鉄道職員の内情、正義、職務意識など、臨場感を伴って読めるため、本当に感動します。		
67	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	おちくぼ物語 田辺聖子 角川書店	古典の現代語訳本で、日本版「シンデレラ」です。こちらの場合、ハッピーエンドの後、継母姉への王子様からの復讐が容赦なく、痛快です。この書店の文庫だと、装丁もオシャレで素敵です。		
68	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	告白 町田康 中公文庫	バンクロッカーで小説家という異色の経歴を持つ筆者による小説。「本当の自分」ということに捕らわれた主人公の生き様に人間存在の本質を見る。その文体も内容も強烈な印象を残してくれる。		
69	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	日本語練習帳 大野晋 岩波新書	私たちは「日本語」を知っているのか、正しく使えているのか、「思う」と「考える」は何が違うのか、「は」と「が」の使い分けは何なのか。「国語は好きだ」と「国語が好きだ」の違いはどこから生まれるのか？日本語を母語として使う私たちが見過ごしてきたことを見直してみましょう。	○	
70	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	はとの神様 関口尚 集英社文庫	人生は運不運などに溢れていると思います。前半は他人にはわからない悩みや苦悩を抱える三人の少年少女が「レース鳩」を飛ばしに旅立ちます。後半は軒余曲折な人生を歩んだ彼らが大人になった姿が描かれています。痛みを分かち合えながら、それ以前に進み続ける主人公たちの姿と成長をじっくり読んでみて欲しいです。		
71	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	殴り合う貴族たち 繁田信一 角川ソフィア文庫	平安貴族は徳理と和歌を執りし職階として遊んでいたのでは？というイメージを完全に覆す「ケンカ上等」な人々のお話。多少、筆者による誇張はあるものの、当時の日記『小右記』に基づく平安貴族の実態、『源氏物語』では絶対に描かれなかった貴族社会を知りたい人はぜひ、同じ著者の「王朝貴族の悪戯み 清少納言危機一髪」も『枕草子』も読んで欲しいです。		
72	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	評論国語のための高校入試国語 石原千秋 NHKブックス	現代文ってどうやって勉強すればいいの？と悩んでいる人、高校入試で使われた問題文をもとに「評論文を批評的に読む」力が身に付きます。また、現代が抱える問題に対する見方・考え方を学びましょう。入試問題は出題に對して正しく答えなければなりません、その方法論だけでなく、「評論文を読む」ことで「現代が抱える問題を考えるきっかけ」にもなっているところが、この本のよいところです。		
73	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	日本語の古典 山口仲美 岩波新書	奈良時代の『古事記』『日本書紀』から江戸時代の『南総里見八犬伝』まで、日本の古典30作品を見聞き3〜4ページで解説した古典文学早わかりの1冊。単なる古典作品の概略本ではなく、「日本語の美しさ・面白さ」を味わえるよう、抜粋した原文と、筆者が楽しんで味わっていることがわかる文章で書かれています。この本ですば「この古典作品、おもしろそう！」という作品を知ることができそうです。		
74	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	蝉声 河野裕子 青磁社	現代の歌人・河野裕子の選集。家族を愛し短歌を愛した彼女が闘病生活の中で詠んだ歌の数々。こうして家族に養われながら、薄していく家族を心配しながら生きていった女性の気持ちは、個人的でありながら普遍的。「しがみついて生きていくはあらざるど一生(ひとよ)を生き切りこぼはれず」「手をのべてあたとあなたに触れたい息が足りないこの世の息が」		
75	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	李白と杜甫 高島俊男 講談社学術文庫	唐の詩人、李白と杜甫の人生と詩を、とても読みやすく解説している。杜甫が官僚でありながら文章が苦手で、全部が詩になってしまっ天才肌であったこと、また、李白がいか加減なおべんやらを言って世渡りする人だったことなど、意外な人柄が見えてくる。著者のエッセイ集『本が好き 悪口言うのはもっと好き』に、この本のコンパクトなまとめがあり、こちらもおすすめです。中国文学(漢文・漢詩)が俄然面白くなります。		
76	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	虚無への供物 中井英夫 講談社文庫	小栗虫太郎著「黒死館殺人事件」、夢野久作著「ドグラ・マグラ」とともに日本三大奇書の一冊に数えられる。かつての宝石商、水沼家に起きる数々の事件を登場人物達がさまざまに推理する。だが、その推理は混迷を極め…推理小説でありながら反推理小説とも称される傑作。		
77	★★	【書名】 【著者】 【出版社】	拘摸 中村文則 河出文庫	天才的なスリ師である「僕」は、ある日最悪な男「木嶋」と再会し。過酷な課題を背負うことになる。「反社会的な内容」に、残酷な運命の中で生きる個人の抵抗を書いた物語。一作者自身によるこの言葉が、本作品を良く表している。		

78	★★	【書名】 燃えよ剣(上)(下) 【著者】 司馬遼太郎 【出版社】 新潮文庫	岡田進一主演で映画化もされる本作。これを読んで、新選組・土方歳三に惚れない人はいないんじゃないか！って思うくらい魅力的。司馬遼太郎の硬質な文に最初は戸惑うかもしれませんが、これがいい！と感じるようになってきたら、魅惑の司馬ワールドへようこそ！この本で新選組に興味を持ったなら「新選組血風録」も読んでみよう。お気に入りの隊士を見つけよう。		
79	★★	【書名】 三四郎 【著者】 夏目漱石 【出版社】 岩波文庫・角川文庫・新潮文庫その他多数(青空文庫にも)	夏目漱石によるわが国最初の本格的な青春小説。九州から大学入学のため上京した小川三四郎が経験するさまざまな「迷い」を描く。「それから」「門」へと続く前期三部作の一作。		○
80	★★	【書名】 原民喜一死と愛と孤独の肖像 【著者】 椋久美子 【出版社】 岩波新書	「夏の花」や「心臓の国」など被爆体験をもとにした作品で知られる原民喜。その原、死を思う幼少年期から、ひと時の平安を得た妻と暮らす青年期、そして、被爆から自死へ向かう早すぎる晩年までの生涯を描いた傑作評伝。		
81	★★★	【書名】 ヒトラーとナチ・ドイツ 【著者】 石田勇治 【出版社】 講談社現代新書	なぜヒトラーはあれほどまでの支持を集めたのか？なぜ誰も暴走する政権を止められなかったのか？丁寧な時代考証を踏まえて時代を振り返る人間のあり方が浮かび上がってきます。現代社会を考える上でも多くのヒントを与えてくれる1冊。		
82	★★★	【書名】 一九八四年 【著者】 ジョージ・オーウェル 【出版社】 ハヤカワepi文庫(早川書房)	「ビッグ・ブラザー」率いる党が支配する全体主義的近未来。ウィンストン・スミスは真理省記録局で歴史の改竄を仕事とする党員であったが、次第に反政府地下活動に惹かれるようになる。ディストピアを描いた二十世紀世界文学の最高傑作。		
83	★★★	【書名】 深夜特急 1～6 【著者】 沢木耕太郎 【出版社】 新潮文庫	今の国際情勢では到底かかわないユーラシア大陸放浪の旅。インドのデリーからイギリスのロンドンまで、乗合いバスで行く。ある日そう思い立った26歳の筆者は、仕事をすべて投げ出して旅に出た。自由と開放感に満ちた、旅の醍醐味を余すところなく伝える旅行記。		
84	★★★	【書名】 樺の海の記 【著者】 石牟礼道子 【出版社】 河出文庫	水俣の豊かな自然とそこに生きる魅力溢れる人々の姿が、四才の幼女の視点から、自由で詩的な文体で描かれている。『蒼海浄土』の作者による自伝的作品。		
85	★★★	【書名】 大江健三郎自選短編 【著者】 大江健三郎 【出版社】 岩波文庫	「奇妙な仕事」「銅管」など、みずみずしい初期の作品から「雨の木」を聴く女たち」など中・後期の作品までを収めた作者自身の手による自選短編集。		
86	★★★	【書名】 日本の思想 【著者】 丸山真男 【出版社】 岩波新書	【現代日本を本質的に捉えたい君に】 前提となる知識・時代背景の理解がないと難しいですが、日本社会に関する卓抜な指摘は極めて本質的です。最後の「『である』ことと『する』こと」から読み始めると読み易いかもしれません。		
87	★★★	【書名】 幼年期の終わり 【著者】 クラーク 【出版社】 光文社古典新訳文庫／ハヤカワ文庫SF	地球上空に、突如として現れた巨大な宇宙船。オーヴァーロード(最高君主)と呼ばれる異星人は姿を見せることなく人類を統治する。彼らの真の目的は何か？異星人との遭遇によって変わっていく人類の姿を哲学的に描いた傑作SF。		
88	★★★	【書名】 カラマーゾフの兄弟 <全5巻> 【著者】 ドストエフスキー 【出版社】 岩波文庫／新潮文庫／光文社古典新訳文庫	帝政露露の予兆をほらむロシアのある町で殺人事件が起こり、ミステリータッチの衝撃的なストーリーが展開される。ロシアの文豪ドストエフスキーの傑作。		○
89	★★★	【書名】 赤目四十八瀧心中未遂 【著者】 車谷長吉 【出版社】 文藝春秋	難しいです。特に序盤は、時系列が行ったり来たり。ただし、読めてくると主人公の人生についてかなり深く想像したくなる小説です。楽しみ(のーつ)としては、タイトルで「未遂」と書けてしまっていること。つまり、「死なない」というオチが予めわかっていた状態で読むわけです。では何を表現したいお話なのか、いろいろ想像し考えながら読むとよいと思います。ちなみに、直木賞受賞作です。		
90	★★★	【書名】 世界哲学史1～8 【著者】 色々 【出版社】 ちくま新書	哲学の歴史を世界全体から見渡そうという画期的なシリーズ。2020年4月現在刊行中で毎月1冊ずつ出版されている。哲学は西洋だけのものではなく、時間・空間を超えた人類の営みであることがわかる。大学生になってからでも良いので是非挑戦してみよう。		
91	★★★	【書名】 現代思想史入門 【著者】 船木亨 【出版社】 ちくま新書	現代の思想状況を5つのテーマにわけて解説する本。新書ながらその分量さに驚くかもしれないが、それだけ中身も充実した1冊。通読することで現代社会を生きる見通しが得られるかもしれない。		
92	★★★	【書名】 光源氏の一生 【著者】 池田弥三郎 【出版社】 講談社新書	光源氏に対してどのような印象を持っているでしょうか。もしかしたら「マザコン」「ロリコン」で終わっている人も多いのではないのでしょうか。源氏物語から彼の一生を眺め解くこと、一言では言い尽くせない豊かな人間性と魅力を感じることが出来るのです。原文はちょっと…と思う人も、光源氏にスポットを当てた源氏物語の入門書として読んでみてください。		
93	★★★	【書名】 紫式部の蛇足 貫之の勇み足 【著者】 萩谷村 【出版社】 新潮選書	『土佐日記』を書いた紀貫之、『源氏物語』を書いた紫式部。彼らは何のために書いたのか。文学作品として味わうだけでなく、彼らの人間性や書くことで彼らが伝えたかったことを読み解いていく。紀貫之や紫式部が「歴史の上の人」ではなくて、泣いたり怒ったり皮肉を言ったりする生身の人間として感じられるでしょう。		
94	★★★	【書名】 〈男の恋〉の文学史 【著者】 小谷野敦 【出版社】 朝日選書	「恋って素晴らしい・美しいもの」でしょうか？いえいえ、「恋はみっともなく、ジタバタあがいて、見苦しいもの」です。日本文学における「恋のみっともなさ」を平安時代の在原業平から近代の夏目漱石まで、作品を通して見つめます。自ら「片思いのエキスパート」と称する作者の実体験がにじみ出る文章も味わい深い。		
95	★★★	【書名】 平安朝の母と子 貴族と庶民の家族生活史 【著者】 服部早苗 【出版社】 中公新書	平安時代の結婚の形から、出産・子育て・育児がどのように行われていたか、貴族と庶民の違いを文学作品やその他の資料からわかりやすく説明しています。古典の世界を理解する上で、ぜひ知っておいてほしいことばかり。		
96	★★★	【書名】 絵画を読む イコノロジー入門 【著者】 若菜みどり 【出版社】 NHKブックス	西洋絵画の鑑賞の仕方を知る本。絵は「好きか、嫌いか」でいいのでは？と思っていましたが、「知識があると、こんなふうに見えるのか」と目から鱗が剥がれ落ちる体験をしました。私と同様、「そこまで絵には興味がない」「美術館に行っても『ふ〜ん』で終わってしまう」というあなたにこそ、読んでほしいです。		
97	★★★	【書名】 日本人はなぜ「さようなら」と別れるのか 【著者】 竹内整一 【出版社】 ちくま新書	なぜ日本人は「さようなら(さらば・それならば)」という接続詞を語源にもつ言葉で別れを告げるのか。その言葉を使ってきた歴史を振り返り、日本人の死生観を考える。古典から現代までの作品・思想家の言葉を引用し、「さようなら」の一言で、ここまで深い思考ができるのだと感動する。「さようなら」の言葉もこれからは大事にしたいと思えるだろう。		
98	★★★	【書名】 墜落論 【著者】 坂口安吾 【出版社】 岩波文庫・角川文庫・新潮文庫その他多数(青空文庫にも)	とにかく読んでおこう。今は理解できなくても。	○	○
99	★★★	【書名】 輝ける闇 【著者】 開高健 【出版社】 新潮文庫	ヴェトナム戦争開戦から9年後の1964年、新聞社の海外特派員としてヴェトナムへ渡った開高は、政府軍と米軍によるヴェトナム掃討作戦に従軍する。ヴェトナムの猛烈な反撃により、生還したのは200人のうち17人という激しい戦闘に身を置いた3年後に本作は発表される。表題は、ハイデガーの「何でも見えているが何にも見えない」という意味の「現代は輝ける闇である」から取られている。		
100	★★★	【書名】 日本仏教史 【著者】 末木文美士 【出版社】 新潮文庫	一口に仏教と言っても、その源であるインドとも、また中国とも異なる日本の仏教が、いかなる変容を遂げて成立したのか。「仏教を必要とした日本人の思想の歴史」を考えるための、知的好奇心に満ちた入門書。橋本純による文庫版解説も秀逸。		